



コンジャンゴン区第一高等学校で百葉箱の使い方を説明をする SEEDS Asia スタッフ (ミャンマー)
SEEDS Asia's staff member explaining how to use a screen for weather observation
at No. 1 Basic Education High School in Kungyangon, Yangon Region, Myanmar

Newsletter

【ソフトバンク株式会社のアプリ「かざして募金」でこの SEEDS のロゴをかざすと簡単に寄付が頂けます。】

Table of Contents Vol.58 (May, Jun. 2017)

- ・ Bangladesh: Project on Capacity Building for Community-Based DRR in Urban Areas
 - ・ India: Project on Participatory Community-Based DRM
 - ・ Myanmar: MCCDDM Project: Myanmar Consortium for Capacity Development on Disaster Management
 - ・ Philippines: Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province
 - ・ Japan: (1) Project on Support for people affected by Kumamoto Earthquake
(2) Joint Project with Tamba City on Community Development
(3) Dispatch of lecturers
 - ・ Announcements from Headquarters
- ・ バングラデシュ：都市部におけるコミュニティ防災力向上事業
 - ・ インド：参加型コミュニティ防災推進事業
 - ・ ミャンマー：国家防災マネジメントトレーニングセンターに向けた能力強化 共同プロジェクト
 - ・ フィリピン：セブ州における学校の防災管理推進支援事業
 - ・ 日本：(1) 熊本地震被災者支援
(2) 丹波市復興まちづくり協働事業
(3) 講師派遣
 - ・ 本部からのお知らせ



特定非営利活動法人 SEEDS Asia

〒658-0072

3-11-30-302 Okamoto,

Higashi Nada ku, Kobe, Japan

神戸市東灘区岡本3-11-30-302

Tel: 078-766-9412

Fax: 078-766-9413

Email: rep@seedsasia.org

Web: www.seedsasia.org

Facebook: <http://www.facebook.com/pages/SEEDS-Asia/206338119398923>



バングラデシュ

【JICA 草の根技術協力事業：バングラデシュ都市部におけるコミュニティ防災力向上事業】

モデルコミュニティ決定！

北ダッカ市でコミュニティ防災を広めていくにあたり、これまで、北ダッカ市内で既に何かしらの活動を実施している住民グループの調査を行いました。調査をするなかで、自主社会福祉グループが市内に複数存在することが分かりましたが、4月、実施している活動内容、防災活動を推進する意欲、組織の継続性等を踏まえ、この自主社会福祉グループの中から3つのグループをモデルコミュニティとして選定しました。これらのグループは、管轄範囲が約500～8,000世帯とそれぞれ規模は異なるものの、いずれも地域の住宅ビル所有者協会を母体としており、メンバーはビルのオーナーたちです。地域のより良い住環境のために、警備員の配置やゴミの収集、各種宗教・年中行事の企画・運営を行っています。SEEDS Asiaとのミーティングを通して防災にも関心を持ち、モデルコミュニティとして、ともに北ダッカ市のコミュニティ防災を牽引していくことに同意しました。

モデルコミュニティリーダー研修

6月14日、それぞれのモデルコミュニティから選出されたリーダーを対象に防災研修第1日目を実施しました。研修は、モデルコミュニティの地域内にある小学校で開催し、コミュニティ防災の必要性と活動事例、災害に強い街づくりのための北ダッカ市の取組みを紹介するとともに、参加者の多くが住宅ビル所有者であることから、専門家より安全な家の建設についてお話をいただきました。また、消防局の職員を招いて、救助と応急処置の基本、消火器の使い方の講習を受けました。参加者全員がそれまで消火器の使い方を知りませんでした。体験を通して楽しく学び、自信にもつながったようでした。さらに参加者の刺激となったのが、SEEDS Asiaが2013年に以前の事業で防災啓発授業を実施して関わったアルマニョーラ公立学校の生徒たちです。彼らは防災クラブを立ち上げて現在も自分たちで防災活動を続けており、5人の生徒がリーダー研修に参加し、彼らの活動や想い、今後の計画を発表しました。今回のリーダー研修は、防災知識を身に付けるだけではなく、各コミュニティのリーダーが一堂に会し交流する良い機会となりました。



リーダー研修の様子



消防局による講習



インド

【日本 NGO 連携無償資金協力事業：バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進事業】

本事業では、防災教育／気候変動教育の拠点となる「クライメイトスクール（CS）」5校とCSが位置する5地区に地域防災協議会を設置し、地域防災のモデルづくりを促進しています。2017年5月、6月は下記の活動を行いました。

気象ワークショップ開催

事業2年次では、災害時に役立つ実践的な知識とスキルの習得を目的に4つの研修を実施しています。先月までに消防、応急処置、水と衛生に関する研修を終え、今回は5月13日に気候と気象・防災ワークショップを開催しました。各分野の専門家を日本とバラナシ市より招聘し、CS4校から教員31名と生徒21名、5つの地域防災協議会から33名のほか、インド気象局職員2名が参加しました。



気象ワークショップの様子

バナラス・ヒンドゥー大学のA. S. ラグバシ教授とSEEDS Asia 大津山光子海外事業統括による開会の挨拶の後、京都大学東南アジア地域研究研究所の林泰一連携教授が、観測レーダーと天気図の読み方、ベンガル湾における気象と健康との関係に関する研究結果や気象観測所と地域との連携事例など、幅広い内容について講義しました。「インドの夏はなぜ暑い?」、「サイクロンが発生する理由は?」といった普段見過ごしがちな疑問について考える機会にもなりました。

バナラス・ヒンドゥー大学地球物理学部のB. R. D. グプタ教授は、バラナシ市の気候変動を取り上げ、異常気象への備えを示唆し、気象に関する自作のヒンディー語の詩を披露しました。



ラグバンシ教授は、CS に設置した自動気象観測装置と大気汚染観測装置について説明した上で、気象観測装置からの情報が逐次ウェブサイト上に更新されており、参加者自らが日常的に気象情報に接することを奨励しました。

最後に、大津山海外事業統括のファシリテーションの下、今後実施予定の避難訓練の準備も兼ねたテーブルゲーム形式の避難訓練を行いました。参加者からは、「最近、こんなに頭を使ったことがない!」と興奮した声も聞かれ、新しい知識を楽しみながら学びました。

後日、地域防災協議会が、大気汚染と気温上昇を軽減するために植林をするとの報告があり、本ワークショップの成果を早くも感じています。

『Prahari』を発行

CS の学生による気象新聞『Prahari』の第 3 号を発行しました。冬季のバラナシ市に顕著な寒波や霧や大気汚染についての自主学習、国家災害対応部隊や消防署との面談、京都市立高倉小学校の生徒による「まちあるき」研修の感想の共有など、豊富な内容となりました。



『Prahari』第 3 号

気候・防災教材の作成に着手

バナラス・ヒンドゥー大学が気候を、SEEDS Asia が防災を担当し、教材を作成しています。防災教材は、バラナシ市の防災 30 年史、ヒンドゥー教修行僧によるガンジス河の観察と天気日記の 3 構成からなります。完成した教材は、CS や周辺校の授業にて試行運用される予定です。

【USAID 国家防災マネジメントトレーニングセンターに向けた能力強化 共同プロジェクト】

社会福祉救済復興省・復興救済局をカウンターパートとして、ミャンマー国家防災マネジメントトレーニングセンターにおける防災マネジメントトレーニング及び防災に関わる研究や啓発のプロジェクトを実施しています。2017 年 5 月から 6 月の活動は下記のとおりです。

(* 共同コンソーシアムメンバー：UNHABITAT/UNDP/Myanmar Red Cross & American Red Cross/ACTED 他)

技術協力団体：UNICEF, HelpAge, Handicap International, ASHOKA 他)

CCRI (湾岸地域コミュニティの災害回復力調査) 及び CDRI (気候変動に起因した災害を対象とする対応力評価イニシアティブ) に関する冊子の作成

ヤンゴン工科大学及びダゴン大学との連携の下、既に実施した CCRI (湾岸地域コミュニティの災害回復力調査) 及び CDRI (気候変動に起因した災害を対象とする対応力評価イニシアティブ) の調査結果をまとめた冊子の作成を行っています。冊子の内容には調査方法、調査内容、26 地区の対応力評価、調査結果に基づく政府機関への助言などが含まれており、政府機関、現地 NGO、国際 NGO を対象に配布される予定で継続的に編集作業を行っています。

大学機関を対象とした防災調査に関する研究論文のサポート

国家防災マネジメントトレーニングセンターに向けた能力強化 共同プロジェクト (MCCDDM) の下、CCRI (湾岸地域コミュニティの災害回復力調査) 及び CDRI (気候変動に起因した災害を対象とする対応力評価イニシアティブ) に関する学術論文についてのワークショップを 5 月 12 日にダゴン大学で開催しました。ワークショップの目的は大学機関に対し、効果的な学術論文の作成及び出版についてサポートすることでした。エー・エー・トゥン ダゴン大学学長が式辞を述べられた後、パテイン市で実施した CDRI の調査チームであるダゴン大学に対し、学術論文及び防災調査に関する文献を寄贈しました。その後、MCCDDM のコーディネーターであるスリージャ・ナイアールさんより防災に関する国際ジャーナルへの寄稿にあたる情報や注意事項について紹介いただきました。また、ダゴン大学の調査員より CDRI に関する学術論文の骨子について紹介があり、参加者全員でアイデアを共有したり、意見交換をしたりしました。



参加者の集合写真

防災活動センターへ百葉箱の寄贈

今年の5月2日で、138,366名の死亡・行方不明者を伴った巨大サイクロン・ナルギスの被災から9年を迎えました。SEEDS Asiaは、追悼式の開催と共に、損保ジャパン日本興亜環境財団のご寄付による気象観測用百葉箱をコンジャンゴン区第1防災活動センターに設置し、その使用に係るトレーニングを実施しました。ウィン・シュエ 復興救済局ヤンゴン事務所長、ミン・カイン コンジャンゴン地区行政長事務所長、岡田圭司 損保ジャパン日本興亜株式会社 ミャンマー事務所長、大津山光子 SEEDS Asia 海外事業統括からの式辞後、参加者全員でナルギスの犠牲者に対し1分間の黙祷を捧げました。その後、コンジャンゴン防災活動センターよりナルギス以降の防災活動の実施状況と今後の活動について紹介がありました。また、SEEDS Asiaは教育教材としての百葉箱をコンジャンゴン区第一高等学校に設置し、百葉箱とその使い方について教育省、防災活動センター、学校教員、生徒を含む全ての参加者に説明しました。また、気象水文局イーイーニエン ヤンゴン事務所長からは「学校で気象観測を行うことで気象に関する理解が促進されることは喜ばしい」と述べ、「気象水文局と同じく1日3回のデータを記録すると良い」等、アドバイスも頂きました。更には各代表者によるテープカットを行い、当防災活動センターへの百葉箱設置の式典を執り行いました。この百葉箱設置により、子どもたちが日々の気象情報を記録することで理解が促進され、災害対応能力の強化に役立つことを願っています。



消火器の使い方について学ぶ生徒たち



追悼式のテープカット

ボガレ地区防災活動センターにて防災啓発活動

6月5日より2日間、ボガレ地区防災活動センターにて、防災啓発を目的とした移動式防災教室を用いた防災研修が開催されました。防災活動センター委員会の方々がSEEDS Asiaと協力の下、コミュニティメンバー、学校教員、生徒を対象とした防災教育を提供しました。参加したマ・リン・リン・ピョーさん(14歳・女性)は「全ての人が災害について知るべきです。一部の児童・生徒は災害について一般的な知識はあるかもしれませんが、災害のメカニズムまでは知らなかったはずですが。今回の研修のおかげで、災害前、中、後取るべき対応を知ることができました」。また、ドー・キン・チョー・カインさん(38歳・教員・女性)からは「トレーニングを終え、今度は私自身が自分の生徒や地域の子どもたちに教えることができます。このようなトレーニングが全てのコミュニティの方々にも提供されることを望みます」という感想を頂きました。

フィリピン (セブ)

【JICA 草の根技術協力事業：セブ州における学校の防災管理推進支援事業】

キックオフワークショップを開催

6月1日、セブ市内のホテルにて「セブ州における学校の防災管理推進支援事業」のキックオフワークショップを開催しました。JICA フィリピン事務所、教育省本省防災管理室、教育省第7地方事務所、パイロット地域の地区事務所防災管理担当と地方自治体の防災管理担当、社会福祉開発省第7地方事務所の担当等、総勢26名が参加しました。オープニングでは、教育省第7地方事務所を代表しヴィクトール・インティグ氏が新プロジェクトの開始に当たる祝辞を述べ、学校の防災管理を主とする新プロジェクトの成功を祈念すると共に、2013年の台風コランダでの緊急支援に始まったSEEDS Asiaのフィリピンにおける包括的な学校防災支援への貢献に感謝の言葉を述べました。

ワークショップでは事業の概要とスケジュールを共有し、時間をオーバーしてしまうほど活発な意見交換が行われました。事後アンケートでも3年間の事業に対して自身のコミットメントを表明するものや、前向きなコメントを多くいただき、新事業への意気込みが見られました。



キックオフワークショップにて集合写真

先行事業のモデル校・推進校訪問、パイロット地域の教育省地区事務所所長への表敬訪問

5月30日、31日、6月2日にかけて、教育省第7地方事務所長と、全パイロット地域（ボゴ市、カルカル市、セブ市、ダナオ市、ラブラブ市、マンダウ工市、ナガ市、タリサイ市、トレド市、セブ州）の教育省地区事務所長を表敬訪問するとともに、前事業の防災教育モデル校・推進校全13校に訪問をしました。学校の防災管理について尋ね、現状について把握する機会となりました。新学期に向けて防災教育教材を準備する多くの教員に会い、防災教育支援を主としていた前事業の効果も同時に確認することができました。

この訪問に加え、6月から7月にかけては、事業の実施に必要となる情報を集めるため、約30校を対象にベースライン調査を実施する予定です。



訪問によるアンケート聞き取り調査



学校訪問の様子

被災地の教訓を伝える

5月には、気仙沼の復興支援に携わった経験者を宇城市に派遣しました。地域支え合いセンターの相談員と行動を共にしながら、相談に求められるノウハウを伝えました。

また、仮設住宅と近くの自治会とが互に見守っていく環境がつかれるように、交流を促進することも大切です。このことは、仮設住宅から災害公営住宅等へと移行する際にも、周囲との良好な関係づくりの構築に活かされるからです。そのため、地域を巻き込んだイベントなど、気仙沼での活動事例を紹介しました。「東北の人たちの大変さが本当によくわかり、自分たちも励まされた」「具体的に活動を知ることができ、参考になった」などの感想がありました。



仮設住宅の集会所で気仙沼の活動映像を紹介



日本

(1)【赤い羽根共同募金：熊本地震被災者支援】

生活再建に向けて

熊本地震から1年が経過し、仮設住宅や民間の賃貸住宅へみなし仮設として入居されている方たちが一番不安を抱えているのは、今後の住居です。決して十分な広さとはいえない仮設住宅でも、「おかげさまで安心して生活でき、感謝しています」とおっしゃる被災者の方たちも「ただ、この仮設住宅に住める期間は2年しかないで、その後の住居をどうすればいいのか不安です」と異口同音に話されます。

このような被災者の実態を把握するために、SEEDS Asiaが支援を行っている地域支え合いセンターでは、熊本県および宇城市からの要請を受け、被災者の方々へ住まいに関するアンケート調査を実施しています。宇城市で被災された半壊以上の被災者約700名に郵送でアンケートを行い、返信がない場合は、一軒一軒、訪問をして聞き取り調査を行っています。アンケートの結果は今後の災害公営住宅計画に反映される予定です。

(2) 【丹波市復興まちづくり協働事業】

学校による防災授業の展開

6月14日、2つの学校で防災授業が実施されました。

前山小学校は、2014年の豪雨災害の影響を最も受けた学校であり、この学校に通う児童は日常生活の中でその後の復旧・復興の過程を目の当たりにしています。同校では、3年生を対象に8時限を費やして、豪雨災害とふるさととの風景との関わりを学ぶ授業を実施しています。この日は、食べ物を通して前山地区を元気にするための活動をしているグループによる授業でした。このグループは、災害時の炊き出しで地域の被災者に喜んでもらった経験と、外部からのボランティアに支援してもらった感動から、地元の食材を使った体に優しい料理を通じて多くの人と交流できる場をつくりたい、という願いを持って活動しています。そのお話を聞き、児童は「ぼくも手伝う!」と発言したり、「ラーメンが食べたい」とメニューのリクエストを出したりしていました。「願いは何ですか?」との児童の質問に対して、「みんなが前山で元気に暮らして、ふるさとを愛し、大学や就職で丹波を出ても、いつか帰ってきてくれたらいいなと思います」と答えていたのが印象的でした。

小川小学校では、オープンスクールで保護者や地域の方々が授業を参観する中、2・3・4・6年生向けの防災教育が実施されました。授業では、兵庫県教育委員会の防災副教材「明日に生きる」や、丹波市教育委員会とSEEDS Asia、研究指定校の先生方などが協働で作成した「心つなぐ」が活用されていましたが、先生によるオリジナルの授業も見られました。昨年度、何度も議論を重ねてつくった副教材「心つなぐ」を用いた授業では、「大雨が起きたらどのような影響があるか」や「災害に備えるために何をすべきか」という先生の問いかけに対し、児童は積極的に「川があふれて家が流されます」「家族で話し合って避難の練習をするべきだと思います」などの発言をしていました。



前山小学校で授業をするグループ

(3) 【講師派遣】

SEEDS Asia では、全国の学校や地方自治体、企業などの民間組織・団体の講演会やイベント等、幅広い方々を対象に、講師を派遣しています。2017年5月—6月には以下の講師派遣を実施しました。

1) 兵庫県立大学での講義 (於：兵庫県)

5月20日、兵庫県立大学の「防災の国際協力」科目の中の「防災の国際協力におけるNGOの役割」の講義を担当しました。

講義では、防災の国際協力に関わるあらゆるアクターの中でも特にNGOの役割を明らかにし、その強みを生かしてSEEDS Asiaが実施してきた海外プロジェクトの具体例を紹介しました。学生からは「NGOで働くために必要なスキルはありますか?」などの質問があり、国際協力、特に防災を仕事にすることについて少しでも興味を持っていただけたようです。

2) 国際交通安全学会におけるASEAN若手リーダー向け防災講演 (於：兵庫県)

2017年6月14日、SEEDS Asiaは、神戸市商工貿易センター会議室にて「NGOによる地域密着型の被災地支援 - 第三者として復興に関わること-」という演題で講義を行いました。



講演の様子

同講演は、公益財団法人国際交通安全学会がASEANメンバー国からの若手を対象に実施している研修プログラムの一環で、招聘された約20名の政府関係者/起業家が出席しました。内容は日本の大震災の経験や教訓にみる開発と災害の関連性、そして防災における自助や共助、そしてN助(ネットワーク)の重要性についてお伝えし、ミャンマーを事例にSEEDS Asiaが各国で復興支援をおこなう際のアプローチや重ねてきた工夫などについてお伝えしました。

3) 特定非営利活動法人災害人道医療支援会 (HuMA)15 周年 記念シンポジウムでの講演 (於 : 東京都)

2017年6月17日、特定非営利活動法人 災害人道医療支援会 (HuMA) 15周年記念シンポジウムへの講師派遣の依頼を受け、SEEDS Asia は「人道支援とその課題 - Reaching the Reachable -」というタイトルでの講演に講師を派遣しました。シンポジウムでは、HuMA の 15 年のミッションや沿革の紹介の後、「団体の活動理念とこれまでの活動」、「人道支援において共有すべき教訓や課題」、「その課題に対する現在の取り組み」、「今後の展望」の 4 点について、人道支援団体からそれぞれの発表があり、アジア、アフリカ、中東など、様々な場所で日本の団体が展開している人道支援の事例やその課題が共有され、ネットワークの必要性が強調されました。

この場をお借りして、特定非営利活動法人 災害人道医療支援会の皆様に、設立 15 周年のお祝いを申し上げますと共に、シンポジウムへのご招待に感謝申し上げます。

SEEDS Asia では、講師派遣を行っています。防災に関わる内容から活動国の話等、講義から、ゲームや紙芝居などのアクティビティを取り入れた講座など、幅広い方々を対象に講演を行うことができますので、ご関心のある方は SEEDS Asia 事務局 講師派遣係 (rep@seedsasiasia.org) までお問い合わせ下さい。

新スタッフ紹介

本部事務所 (村松 裕恵)

皆様、はじめまして。

5月下旬より本部事務所に勤務しております村松裕恵(むらまつひろえ)と申します。

主に翻訳業務、ニュースレターの編集業務およびその他本部事務所のアシスタント業務を担当することになりました。

これまで金融機関に勤務しており、防災関係に関しては分からないことばかりですが、一つ一つ勉強し、お役に立てるよう努めていきたいと思っております。よろしくお願い致します。





Bangladesh

JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Project on Capacity Building for Community-Based DRR in Urban Areas of Bangladesh

Model Community was Selected!

As we start and expand community DRR initiatives in Dhaka North City Corporation (DNCC), we have surveyed existing community groups that have been working on community issues. In the survey, it was found that there were a number of voluntary social welfare agencies, and in April, three groups were selected as model communities based on their activities, motivation towards DRR, group's sustainability, etc. Although their organization size differs (as the number of household covered ranges from 500 to 8,000), they all are based on house owners' associations and most of the members are house owners. Their activity includes arranging security guards, managing waste collection, and holding cultural events for the community. Through meetings with SEEDS Asia, they showed interest in DRR issues and enthusiastically agreed to work with us as a model community.

Model Community Leader Training

On 14th June, SEEDS Asia conducted a day-long training for model community leaders. The training took place at a school in one of the model communities and topics such as Dhaka's disaster risks, community DRR and activity examples, and DNCC's work towards a resilient Dhaka were discussed. Also, given that most of the participants were house owners, concept of safe building construction was introduced by an expert. In addition to that, the participants received practical lectures on how to carry injured persons and basic first aid, as well as how to use fire extinguishers by Fire Service department, which participants had little knowledge before the training, .



Leader Training

Further, what inspired the participants was a presentation by Armanitola government high school students for whom SEEDS Asia had conducted DRR education program in our previous project in Dhaka in 2013. They formed DRR students' club and have continued their activities. five students joined the training and shared their work, motivation, and future plans. This model community leader training became a great opportunity for the participants not only to learn DRR knowledge, but to interact and be connected with other communities and resource persons.



Lecture by Fire Service Department



India

Project for Participatory Community Based Disaster Risk Reduction Approaches in Varanasi, funded by Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA)

SEEDS Asia has been promoting a model of community-based Disaster Risk Reduction (DRR) by establishing five 'Climate Schools (CS)' as focal points of DRR/climate change education, and five 'Citizen Forums (CF)' in each CS area. The activities carried out in May and June 2017 were as follows.

Climate, Weather and DRR Workshop

The second year of the project was designed to develop the beneficiaries' practical knowledge and skills for emergency situations through four kinds of training. Three training sessions on firefighting, first-aid, water, sanitation and hygiene were organised at the 'Climate, Weather and DRR Workshop' on 13th May. Experts on these three themes were invited from Japan and Varanasi, while CS's 31 teachers and 21 students, CF's 33 members, and two staff members of India Meteorological Department participated.

Opening speeches were given by Professor A. S. Raghubanshi, Banaras Hindu University (BHU) and Ms. Mitsuko Otsuyama, Head of Overseas Operation, SEEDS Asia, followed by the first lecture, in which Professor Taiichi Hayashi, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, discussed various topics, such as the usage of weather search radar and weather map, findings from his research on the relationship between weather and health in Bengal Bay areas and a case study of collaboration between weather observatory and community. They led the participants to question what they rarely explored, such as 'why is it hot in India?' and 'why do cyclones happen?'

Professor B. R. D. Gupta, Department of Geophysics, BHU, delivered a lecture on climate changes in Varanasi, emphasising the importance of preparation for extreme weathers. He closed his lecture with his own Hindi poem on climates.

Professor Raghubanshi explained about automatic weather station and air sampler, which had been installed in CS. He encouraged the participants to be familiar with weather information by accessing weather website, to which data from CSs were being sent.

The final session was on 'Participatory Disaster Imagination Game', facilitated by Ms. Otsuyama. It was a preparatory session for the up-coming activity of mock drills. In the exercise, one of the participants was so excited that she commented, 'I have not used my brain to such an extent recently!'

Later, a CF reported that they were going to plant trees to reduce air pollution and decrease a temperature. It shows that this workshop helped people think of their community.



Climate and Weather Workshop

Prahari Third issue

The third issue of 'Prahari', a student's weather and DRR newspaper, was published. This issue dealt with self-study on cold waves and fogs as typical winter weather phenomena in Varanasi; interviews with 11th National Disaster Response Force, Varanasi, and the Uttar Pradesh Fire Service; sharing experience of town-watching training by Kyoto Takakura Elementary School.



Prahari Vol. 3

Preparation of Exercise books in progress

In this activity, Banaras Hindu University (BHU) is in charge of climate and weather, while SEEDS Asia works on DRR in developing the exercise books. The latter's contents will be a 30-year disaster history in Varanasi city, Sadhus' observations on Ganges River and a weather diary. These exercise books will be used in CS and outreach schools on a trial basis.



USAID MCCDDM Project: Myanmar Consortium for Capacity Development on Disaster Management

SEEDS Asia is working on disaster management (DM) trainings, research and public awareness of disaster risk reduction (DRR) as a member of the consortium of Myanmar Consortium for Capacity Development on Disaster Management (MCCDDM) at Myanmar National Disaster Management Training Centre (DMTC) in cooperation with Relief and Resettlement Department (RRD) of Ministry of Social Welfare Relief and Resettlement. The report on our activities of May and June 2017 is as follows.

(*Consortium of MCCDDM : UNHABITAT/UNDP/Myanmar Red Cross & American Red Cross/ACTED etc. Technical support agencies in the consortium: UNICEF, HelpAge, Handicap International, ASHOKA etc)

[Drafting booklets on Coastal Community Resilience Index \(CCRI\) and Climate and Disaster Resilience Index \(CDRI\) surveys](#)

Booklets on Coastal Community Resilience Index (CCRI) and Climate and Disaster Resilience Index (CDRI), which summarize the results of the surveys, are currently being drafted. They contain information on research methodology, resilience of 26 townships, survey results, and policy recommendations for the governmental sector and will be distributed later to concerned governments, NGOs and INGOs.

[Support for academic DRR research paper targeted at Universities](#)

A workshop on Academic Research Paper on Coastal Community Resilience Index (CCRI) and Climate and Disaster Resilience Index (CDRI) was held at Dagon University on 12th May 2017 under MCCDDM Project. The purpose of the workshop was to provide support for the universities to be able to effectively write and publicize academic papers. After the rector of Dagon University, Dr. Aye Aye Tun, made an opening speech, SEEDS Asia donated books on academic writing and research on DRR to the university, which is the researcher of CDRI conducted in Patheingyi. Later, Ms. Sreeja Nair, coordinator of MCCDDM project, introduced information and advice on international journals on DRR to the researchers. Lastly, researchers from Dagon University introduced an outline of academic papers on CDRI and participants discussed and shared ideas with them.



Group Photo of Participants

[Donation of a screen for weather observation to DRR Activity Center in Kungyangon, Yangon Region](#)

2nd May 2017 marks nine years after Cyclone Nargis swept off Myanmar and took the lives of 138,366 people. Today, the Memorial ceremony of Cyclone Nargis and installation of screen for weather observation were held in Kungyangon DRR Activity Center on 2nd May 2017 organized by SEEDS Asia with the support from SOMPO JAPAN Nipponkoa Environment Foundation for the screen for weather observation. After Mr. Win Shwe from Relief and Resettlement Department (RRD) Yangon Office, Mr. Min Khine Win from Kungyangon General Administrative Office (GAD), Mr. Keiji Okada from SOMPO JAPAN Myanmar Office, Ms. Mitsuko Otsuyama from SEEDS Asia Headquarters delivered addresses at the ceremony. All participants observed a silent prayer in memory of the victims of the Nargis. Kungyangon DRRAC introduced its activities since the Nargis and plans for the future on disaster preparedness. SEEDS Asia installed the screen in No. 1 Basic Education High School (BEHS) Kungyangon and explained how to utilize the screen for education purpose to the participants including Ministry of Education, community members, teachers and students. Daw Yi Yi Nyien from DMH also expressed his pleasure to promote the understanding of weather by observing it and gave key advice on weather observation for the school. Lastly, the representatives of the organizations cut a ribbon for the ceremony.

We truly hope this screen for weather observation will enhance the understanding of weather information among the children in Myanmar so that they are able to take appropriate actions. A fence to protect the screen was built by the school principal herself.



JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province

Kick-off Workshop

SEEDS Asia held the kick-off workshop on “Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province” at a hotel in Cebu City on 1st June. JICA Philippines, Department of Education (DepEd) Central Office-Disaster Risk Reduction and Management Service, DepEd Region 7, Schools Division Offices, DRRM officers of Local Government Units from the pilot areas, and other partners such as Department of Social Welfare and Development-Field office 7, totaling 26 people participated. In the beginning, Mr. Victor Yntig offered his congratulations to the start of this new project, as a representative of Department of Education Region 7. He prayed for the success of the project, which is focused on School Disaster Risk Reduction and Management, and appreciated SEEDS Asia's contribution in support of the Philippines' comprehensive school safety, which started from emergency assistances to those affected by Typhoon Yolanda in 2013. SEEDS Asia presented the project brief and its schedule. Along with an active discussion, participants asked questions and gave comments to improve the project, and in the post workshop questionnaire, they showed their motivation to the new project with their commitments or positive comments about this project for the next three years.



Cutting the ribbon during the ceremony

Implemented DRR training at DRR Activity Center in Bogale

For two days from 5th June, SEEDS Asia conducted training-of-trainers for public awareness about DRR with Mobile Knowledge Resource Center (MKRC) at DRR Activity Center (DRRAC) in Bogale township. In cooperation with SEEDS Asia, committee members of DRRAC provided DRR education for community members, teachers and students. A participant, Ma Lin Lin Phyto aged 14 said that everyone should know more about disasters. Some students may know about hazards in general, but not about their mechanisms. After attending the training, we are more aware of actions before, during and after disasters. In addition, Daw Khin Chaw Khaing aged 38, teacher, said that she can provide the same DRR lessons to her students and children in her ward. She hoped the training could also reach all community members.



Students learning how to use a fire extinguisher



Group Photo during Kick-off Workshop

Visits to Model and Promotion Schools of the Previous Project and Courtesy Calls to Schools Division Superintendents

On 30th, 31st May and 2nd June, SEEDS Asia's members also made courtesy calls to DepEd Region 7's Regional Director, seven Schools Division Superintendents of DepEd division offices, and visited all 13 Model and Promotion Schools in the previous DRR Education project of all pilot areas, in Bogu city, Carcar city, Cebu city, Danao city, Lapu-lapu city, Mandaue city, Naga city, Talisay city, Toledo city, and Cebu province. They shared information about the status of their School DRRM. SEEDS Asia met many teachers preparing DRR materials for the new school year. SEEDS Asia was also able to see that the previous project about DRR Education worked very well with the schools.

Following these visits, SEEDS Asia will also start baseline surveys in June and July targeting 30 schools, to know more about the status of School DRRM for the project implementation.



School Visit

Upon a request by Kumamoto Prefecture and Uki City, in order to understand the actual situation of those affected people as described above, Community Mutual Support Center, which SEEDS Asia supports, is conducting a questionnaire survey regarding housing to those affected people. The questionnaires were sent by post to about 700 people of those affected in Uki City whose housing was more than half destroyed. In case the return responses are not received, the survey is done by visiting each home. The results of the questionnaire will be reflected in the future publicly owned housing plans.



Questionnaire Survey by Visit

Lessons of another disaster stricken area informed

In May, SEEDS Asia dispatched an expert with the experience on reconstruction assistance in Kesennuma. This person worked with a counselor at Community Mutual Support Center and shared know-how most likely to be requested.

Moreover, it is important to promote mingling so as to improve the living environment where those in temporary housing and residents' association nearby watch over each other. The reason for this is that this will be utilized to build good relationships with neighbors even after those affected people move from temporary housing to publicly owned disaster housing, etc. For this purpose, some activities conducted in Kesennuma, such as the events which involved the regional community, were introduced to those affected people. The following voices were heard: "We understood how hard it was for those hit by the Great East Japan Earthquake. We are very much encouraged." "We were able to learn about the activities in a concrete way, and it was very informative for us."



Showing Film of Activity at Kesennuma at Temporary Housing Meeting Place

 Japan

(1) Central Community Chest of Japan: Kumamoto Earthquake

To put people's lives back in order

Housing is the main concern for those who live in temporary housing or privately owned rental homes as deemed temporary housing. Although temporary housing is not large enough, some affected people who live in such housing said, "We can live comfortably here and are thankful for that." Those said, "Since we can live in this temporary housing for only two years, we are very worried about what we are to do about the future housing.

(2) Joint Project with Tamba City for Community Development

DRR classes at schools

On 14th June, two schools in Tamba City conducted DRR classes.

At Sakiyama Elementary School, which was the most heavily affected by torrential rains in 2014, the school children always see the recovery-reconstruction process in their daily lives. Third graders are undergoing eight-hour classes to learn about the relation between the disaster in 2014 and the scenery of their hometown. This day, a group provided a lecture about their activities of revitalizing the community through food. The group members had encountered the disaster, and served food to the affected community members with the help of volunteers both inside and outside the City. This experience led them to hope that they can create opportunities for interaction among people through food that is made of locally grown ingredients and is good for health. Hearing their story, the students said "I want to be of help too!" and "I request for ramen noodles" among others. One student asked what the group's wish was, and one of the group members answered "I want children like you to grow up well and come to love our home, Sakiyama. Hopefully you will come back to this community even if you move to big cities for study or work."

At Ogawa Elementary School, DRR Education classes were provided to second, third, fourth and sixth graders on this "open school day". Some teachers were utilizing supplementary readers "Living for Tomorrow" by Hyogo Board of Education, and others "Bridging Hearts" developed by Tamba Board of Education, SEEDS Asia, and teachers of the City. Using the supplementary readers, teachers asked: "What is going to happen if heavy rain keeps falling?" and "What can you do to be prepared for a disaster?" and the children answered actively, for example, "The rivers will overflow and the water will wash houses away" or "We should have family meetings to discuss such occasions and practice evacuation".



Lecturer group at Sakiyama Elementary School

(3) Dispatch of lecturers to conduct DRR class or event

SEEDS Asia dispatched staff members as lecturers to conduct DRR training or classes in a wide range of methods and contents on the requests from any organizations such as schools, municipalities, residential communities and private sectors. In May and June 2017, our staff members provided the following lectures.

1) Lecture at University of Hyogo (in Hyogo Prefecture)

On 20th May, a staff member of SEEDS Asia headquarters took charge of a lecture on the roles of NGOs in international cooperation for the unit "International Cooperation for Disaster Reduction" at University of Hyogo.

The lecture identified the roles of nongovernmental organizations among different actors in international cooperation specifically on DRR. Examples of overseas projects by SEEDS Asia were showcased as well. The students asked questions such as "What skills are required to be a staff member of an NGO?" which means they were interested in working in the field of international cooperation on DRR.

2) DRR Lecture for ASEAN Young Leaders at International Association of Traffic and Safety Sciences (in Hyogo Prefecture)

On 14th June 2017, SEEDS Asia delivered a lecture on "Community-based Assistance to Affected Areas by NGOs - to be involved as a third party -" at the Kobe Commerce, Industry and Trade Center Building.

This Lecture is a part of the training program targeted at young people from ASEAN member countries conducted by International Association of Traffic and Safety Sciences, and about 20 government officials and entrepreneurs attended the lecture. The content was about the relationship between development and disaster based on Japan's experience of and lessons from big earthquakes, self help and mutual help for DRR as well as the importance of network help. The lecture also covered about approaches and various efforts made when SEEDS Asia conducted construction support in each country, using the case of Myanmar as an example.



Lecture

3) Lecture at 15th Anniversary Symposium of Humanitarian Medical Assistance (HuMA) Certified NPO Organization (in Tokyo)

On 17th June 2017, at 15th Anniversary Symposium of the Humanitarian Medical Assistance (HuMA) Certified NPO Organization, a SEEDS Asia staff member delivered a lecture on "Humanitarian Support and its agendas – Reaching the Reachable -." At the symposium, after the introduction of HuMA's mission and history of 15 years, presentations were given by some humanitarian support organizations on the following topics: "Philosophy of activity of the organization and its activities so far", "Lessons and/or agendas to be shared at humanitarian support", and "What is currently pursuing in order to achieve the agendas", and "Future prospects."

SEEDS Asia would like to take this opportunity to express its compliment to HuMA on its 15th anniversary.

In general, SEEDS Asia dispatches staff members to organizations upon request, to give lectures (also with games or picture-card shows) with wide range of targets and topics which relates to our activities. If you are interested in inviting our lecturers on DRR, please kindly contact: SEEDS Asia Headquarters (rep@seedsasia.org).

New staff member

Kobe Headquarters Office (Hiroe Muramatsu)

Hello !
My name is Hiroe Muramatsu. I joined SEEDS Asia HQ in late May. My main job is to translate and edit SEEDS Asia's newsletters and support other office works. I used to work in financial business, and disaster risk reduction area is new to me. I will make efforts to study about it one by one so as to be able to be of service to SEEDS Asia.

